# みんなの広場

## サークル仲間 120

### 石巻・川の上プロジェクト

## 「米百俵の精神」貫く

「キャー、冷た～い」。真夏の陽気となった8月18日、小船越にある「百俵館（ひゃっぴょうかん）」では、全身ずぶ濡れで水遊びをする子どもたちの元気な歓声が響き渡りました。

石巻・川の上プロジェクトが住民交流の一環として年4回開催する「asobi基地」の本年度2回目。子どもたちと活動を支援する杏林大（東京都三鷹市）の学生やプロジェクトスタッフが、ビニールプールや水鉄砲の水遊びと流しそうめんなどを楽しみました。

川の上プロジェクトは平成25年3月に発足。東日本大震災後、地区内で集団移転団地の整備が進み、既存住民と新しい住民の融和を図りながら、まちづくりを進めることが目的でした。

図書館とカフェを併設する交流施設「百俵館」の名は、幕末に財政が困窮する中、支援の米百俵を食用ではなく教育のために使った長岡藩の「米百俵の精神」に由来。その理念に基づきプロジェクトは「教育」「地元への愛着」「居場所づくり」の三つを柱に、「耕人館」「たねもみ広場」などの新たな施設も整備して、さまざまな活動を展開しています。

最初に取り組んだのが「カワノカミ大学」。新旧住民が一緒に地域の将来を考える勉強会として、現在も年4回開催しています。仙台から音楽家を招いたコンサートを開いたほか、地元の小・中・高校生に英語と数学を教える週3回の学習塾も行っています。毎月第3日曜日に住民が食品や雑貨を持ち寄って開催する「手作りマーケット」は、地域の恒例行事になりました。

活動内容は、地元の20～30代の若者ら10人で組織する運営委員会が企画します。理事兼運営委員長の三浦秀之さんは「これまでの活動を続けながら、先人が守ってきた里山を、きれいにして、皆さんが楽しめる場にする活動にも力を入れます」と話しています。

「asobi基地」に参加した子どもたちと大学生、スタッフ

水遊びの後、流しそうめんをおいしそうに味わう

## 文化財たんぼう 109

### 奇祭「アンバサン」

## 顔真っ黒「ヘソビ」付け

生涯学習課

令和元年6月27日、長面地区の奇祭「アンバサン」が市指定無形民俗文化財に指定されました。令和に改元後、最初の指定となります。

アンバサンは長面鎮座北野神社末社大杉神社で毎年2月8日直近の日曜日に行われる神事です。創立年代は不明ですが、300年～400年前、あるいはもっとさかのぼるかもしれないともいわれています。「アンバ」には「安波」という漢字があてられており、これは漁村で信仰される神のことです。

大杉神社に集まった参加者は大根の先を切り「ヘソビ」と呼ばれる鍋釜から集めた煤（すす）を付け、それをお互いの顔に塗り付けることで、身体健康・無病息災を祈ります。参加者は顔にヘソビを付けたまま、太鼓に合わせて宮司の先導のもと、三度声高らかに唱え言葉を唱和し、大漁、五穀豊穣を祈ります。この個性的な特徴から、この祭りは奇祭とも称されます。

現在ではヘソビのようなスミを付け合うというのは野卑な行為とされ、一般的にこの習俗は消えてしまいましたが、神を迎え祭るヘソビ付けは、祭りのときに人々が化粧する風習をいまだに残しています。

アンバサンは、神社総代、地区の役員、氏子青年会、招待者、氏子などを中心に行われており、東日本大震災により長面地区が災害危険区域に指定され、居住できなくなった後も、元の地域住民が集まり、伝承し続けています。人々の信仰を受け、地域で親しまれ伝承され続けてきた歴史的背景に価値が認められることから、今後は市指定文化財として保護・保存を図ります。

（写真提供：東北大学李仁子准教授）

（文化財たんぼう107に掲載した臣屋阿部家住宅（主屋・隠居屋）は令和元年9月10日付で国の登録有形文化財に登録されました）

へそび付け

唱え言葉

## キラッとパチリ

### 市民に役立つ病院に

石巻市立病院副病院長
赤井（あかい） 健次郎（けんじろう）さん（60歳）

平成25年1月に着任し、副病院長兼循環器内科部長として一般内科と心臓の治療・検査に携わりながら、石巻医師会理事として地域医療に関する会議にも出席しています。

東日本大震災で被災した南浜町の市立病院にも平成18年から約5年間勤務しました。震災半年後から約3年半、栗原中央病院に勤務した後、平成27年1月に石巻に戻り、市立病院の仮診療所などを回って診療しながら、新病院の開院準備も進めました。

平成28年9月、市中心部に開院した新病院は市役所やJR石巻駅に近く、交通の利便性が格段に向上。好立地を生かして過疎化、高齢化が進む石巻エリア地域医療への貢献や、市民の皆さんに信頼され、お役に立てる病院を目指していきます。

## 食育推進コーナー

### 《子育てママさんを応援!!米粉で手作りお菓子を!!》

JAいしのまき女性部河南地区は7月9日、JA河南支店調理室で「米粉料理教室」を開催し、米粉普及に伴う食育活動の一環として米粉を使ったお菓子作りを行いました。

今回は河南子育て支援センター「パプラ」サークル会員を対象に、子どもたちがキッズスペースで遊んでいる間に実施しました。参加したママたちからは、「楽しかった」「また、機会があったら参加したい」などの感想が聞かれました。小物入れづくりにも挑戦し、ゆったりとした時間を過ごしました。

問　健康推進課（内線2428）

# Topic of town まちの話題

## 河南 灯籠5000個の幻想的景観

和渕夏祭りにぎわう

「2019和渕夏祭り」が8月15日、和渕水辺の楽校で開かれました。ステージでは「エイサー石巻」による豪快な演舞のほか、三味線やバンド演奏などが披露されました。飲み物や焼き鳥、綿あめなどの屋台も出店し、家族連れなどでにぎわいました。強風の影響で延期となった灯籠の点火と花火打ち上げは17日に行われ、河川敷に幾何学模様に配置された色とりどりの灯籠5000個の幻想的な景観が来場者を魅了しました。

## 河北 勇壮な「よさこい」に喝采

飯野川商店街で歩行者天国

地区恒例の夏祭り「いいのかわ歩行者天国」が８月17日に飯野川商店街で開かれました。メインストリート約700㍍を会場に、飯野川小児童や仙台市の「鳳翔乱舞（ほうしょうらんぶ）」による勇壮な「よさこい」踊りが披露され喝采を浴びたほか、餅まき・お菓子まきなどのイベントもあり、大勢の来場者を楽しませました。通りのあちこちに飲み物、かき氷、焼きそばなどの屋台が並び、ミニＳＬに乗車した子どもたちの笑顔もあふれました。

## 石巻 飲食店「はしご」に大満足

「ボンバール石巻」食の魅力発信

石巻の食を「はしご」で味わう「ボンバール石巻2019」が８月25日、市中心部で開かれました。前売り3000円のチケット１枚で、参加38店から選んだ５店で飲食が味わえるイベント。中央二丁目の「割烹八幡家」では、４個の小鉢に盛り付けた料理をビールなどと一緒に提供し、訪れた人たちはそのおいしさに大満足していました。夏恒例のイベントですが、今年初めて実施した冬版を来年２月にも開催する予定です。

## 桃生 好・珍プレーに笑いと拍手

帰省者交えオールスター野球

お盆の帰省に合わせた恒例行事「桃生町オールスター野球大会」が８月14日、桃生球場で開かれました。10代と20代４人、30代と40代２人、50代以上１人を起用するルールで実施。各地から帰省してきた人たちと地域住民らが給人町、中津山、寺崎、永井、太田の五つの地域でそれぞれチームを組み、リンク方式で対戦しました。和やかな雰囲気の中、参加者たちは大ハッスル。好プレーや珍プレーが出るたびに笑い声や拍手が沸き起こりました。

## 雄勝 漁船クルージングに笑顔

大須浜祭り 海も陸もにぎわう

「大須浜祭り2019×LIGHT UP NIPPON」が8月11日、大須浜漁港で開かれました。ステージでは、石巻市のよさこいチーム「舞綺瓔（ぶきよう）」の演舞や「雄勝オーリンクオーケストラ」の演奏が祭りを盛り上げました。海上では漁船クルーズもあり、家族連れらが潮風を浴びながら洋上遊覧を満喫しました。夜は東日本大震災の犠牲者を追悼する灯籠流しと、復興を願った1000発の花火の打ち上げが祭りを締めくくりました。

## 牡鹿 盆踊りで地区民交流

「鮎川夏祭り」を初開催

「鮎川夏祭り」が８月17日、鮎川浜湊川の牡鹿公民館跡地で開かれました。鮎川地区では、震災の影響により地区住民が一同に集まる機会が減少しており、地区民同士で楽しく交流しようと、鮎川第１、第３、第５、第６行政区が共催し、初めて開催しました。４行政区の住民や婦人会員と観光客ら200人近くが集まり、「鮎川音頭」「牡鹿音頭」などの曲に合わせて踊りの輪をつくりました。

## 北上 来春の開園が楽しみだね

保育所園児 こども園見学

来年４月に北上にっこり地区で開園予定のこども園を７月29日、橋浦保育所の年長、年中の子どもたち17人が見学しました。自分専用にデザインしたヘルメットを被り、工事関係者の説明を受けながら見学。引率の先生たちと図面を見ながら、どこが何組さんの部屋になるのかイメージを膨らませました。最後は建設中のこども園を前にみんなで記念写真撮影を行いました。